

The background of the entire page is a traditional marbled paper pattern. It features large, swirling, cell-like structures in a deep red color, with intricate details of white, cream, and dark green or black within the swirls. The overall effect is a dense, organic, and visually complex texture.

Melmoth, The Wanderer; Charles Robert Maturin

紀田順郎 荒俣宏 責任編集

38327
世界幻想文学大系 ⑤ B



エルモスC.R.マチュリン
e Wanderer: Charles Robert Maturin

下 富山木佳夫 訳

国書刊行会

世界幻想文学大系 責任編集—紀田順一郎十荒俣宏

第五卷 B

放浪者メルモス——下

昭和五年二月一日印刷 昭和五年二月初版第一刷発行

著者——チャールズ・ロバート・マチューリン

訳者——富山太佳夫

発行者——佐藤今朝夫 発行所——株式会社国書刊行会

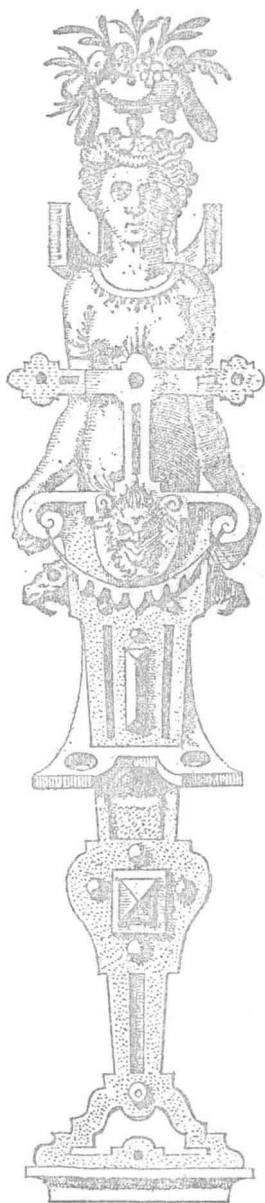
東京都豊島区巢鴨三—五—一八 郵便番号二七〇 電話〇三—九一七—八二八七 振替東京五—六五二〇九

造本——杉浦康平十鈴木一誌

印刷——セイユウ写真印刷株式会社十明和印刷株式会社 製本——大口製本印刷株式会社

定価——二、六〇〇円

●——落丁本・乱丁本はおとりかえます



富山太佳夫とみやまたかお

一九四七年、鳥取県生れ。

東京大学文学部卒業後、

同大学大学院修士課程終了。

現在、お茶の水女子大学

専任講師。

専攻 英文学。

主要著訳書——

『不可能な夢——ゴシック研究』

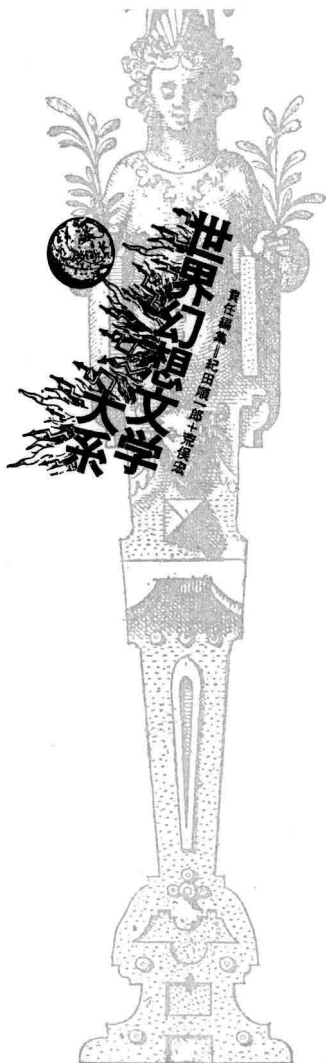
国書刊行会、近刊。

バークヘッド『恐怖小説史』

(共訳)、牧神社、一九七五年。

ライター『神話と文学』

紀伊国屋書店、一九七六年。



① 悪魔の恋 ジャック・ポワント 渡辺一夫・平岡昇一 共訳
Le Diable Amoureux: Jacques Casotte

② マンクM.G.ルイス 井上二夫 訳
The Monk: Matthew Gregory Lewis

③ ウーランド C.B.ブラウン 志村正雄 訳
Weiland or Transformation: Charles Brockden Brown

④ エジプトのイザベラ A.ラニエアルム 深田南一 訳
Isabella von Ägypten: Achim von Arnim

⑤ 放浪者メルモス C.R.マチリン 富山太佳夫 訳
Melmoth, The Wanderer: Charles Robert Maturin

⑥ セラフィタ H.ドバルザック 沢崎浩平 訳
Séraphita: Honoré de Balzac

⑦ シイラ物語 T.ゴーチエ 田辺真之助 訳
Roman de la Momie: Théophile Gautier

⑧ 魔性の女たち J.バルベードール・ルヴィイ 秋山和夫 訳
Les Diaboliques: Jules Barbey d'Aurevilly

⑨ 魔術師 W.S.キーム 田中四二郎 訳
The Magician: William Somerset Maugham

⑩ 魔女の箒 W.デラメア 脇明子 訳
Broomsticks: Walter De La Mare

⑪ 悪魔の陽の下に G.ベルナクス 木村太郎 訳
Sous le Soleil de Satan: Georges Bernanos

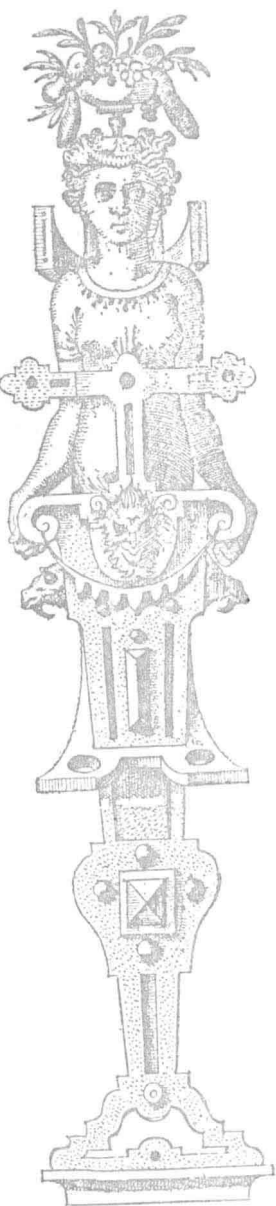
⑫ 詩人と狂人達 G.K.チラタトン 福田恒存 訳
The Poet and The Lunatics: Gilbert Keith Chesterton

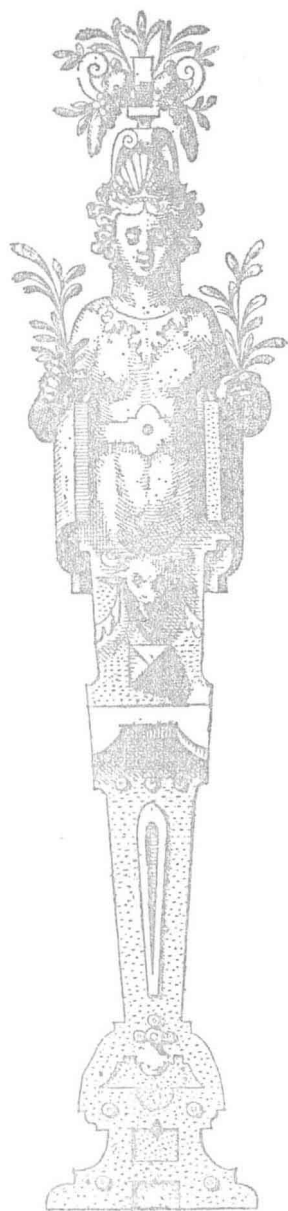
⑬ 現代ドイツ幻想短篇集 G.マイリンク 他 前川道介 編 訳
Deutsche phantastische Erzählungen der Gegenwart: Gustav Meyrink u.a.

⑭ 万霊節の夜 C.ウイリアムズ 峰谷昭雄 訳
All Hallows Eve: Charles Williams

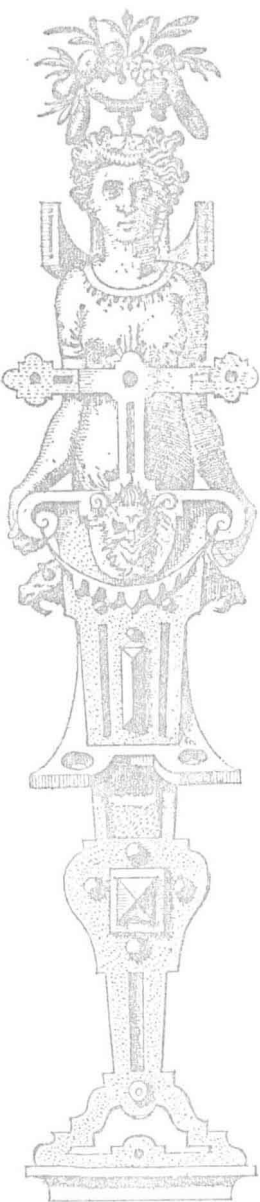
⑮ 創造者 J.レボルヘス 鼓直 訳
El Hacedor: Jorge Luis Borges

第一期 十五巻 (十七冊) 完結——セット定価 三三〇円
第二期 十五巻は一九七八年秋より刊行

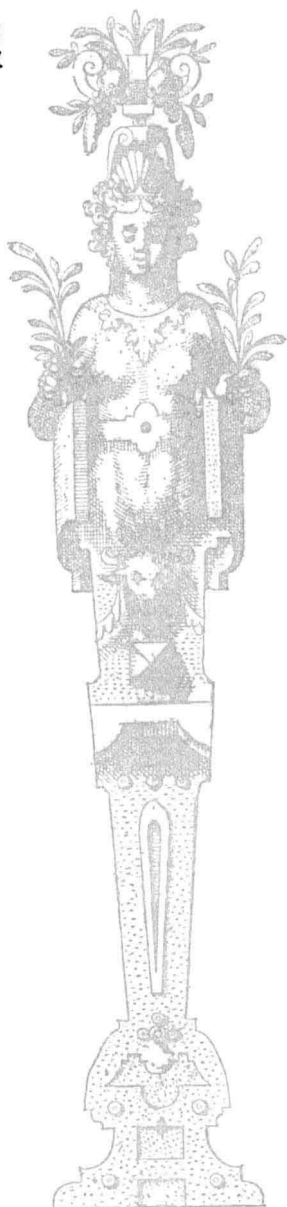




放浪者メルモス——下　チャールズ・ロバート・マチュエーリン——富山太佳夫訳



目次



10 — 放浪者メルモス — 下 チャールズ・ロバート・マチューリン

12 — 第三卷

第一卷、第二卷は上巻

12 — 第十二章

38——第十三章

46——第十四章

54——印度魔島奇譚

68——第十五章

84——第十六章

102——第十七章

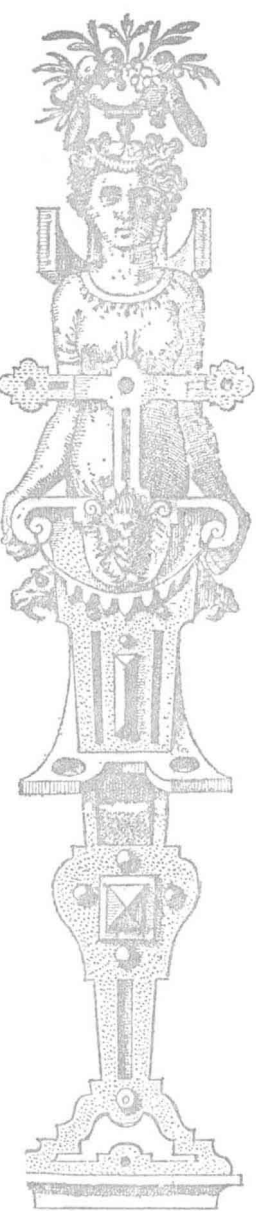
128——第十八章

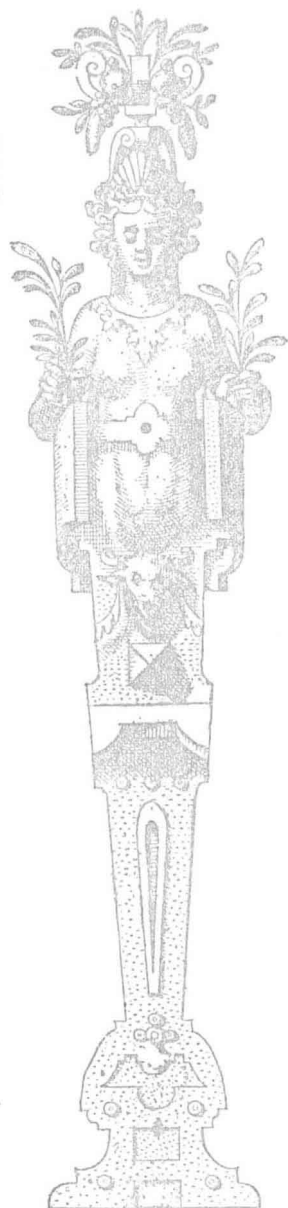
152——第十九章

162——第二十章

210——第二十一章

232——第二十二章





250——第四卷

250——第二十三章

266——第二十四章

284——第二十五章

292——第二十六章

292——グスマン一族の物語

306——第二十七章

322——第二十八章

366——第二十九章

372——恋人の物語

384——第三十章

444——第三十一章

450——第三十一章

468——第三十三章

474——第三十四章

490——第三十五章

504——第三十六章

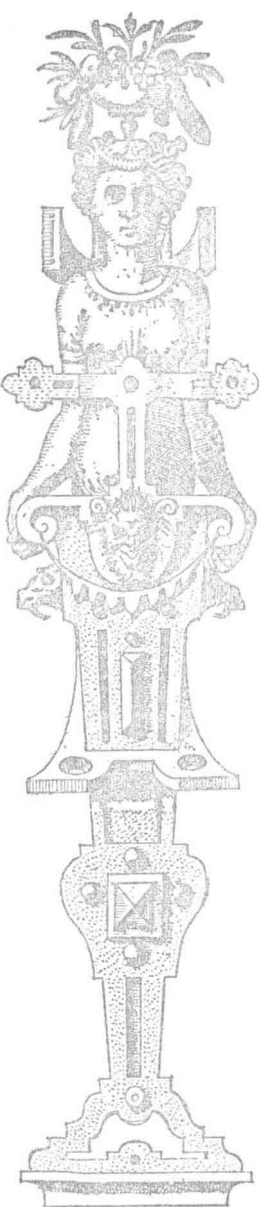
514——第三十七章

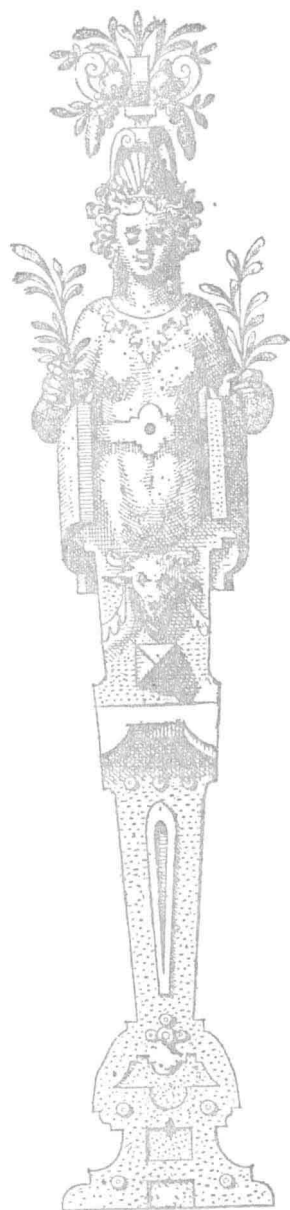
524——第三十八章

532——放浪者の夢

534——第三十九章

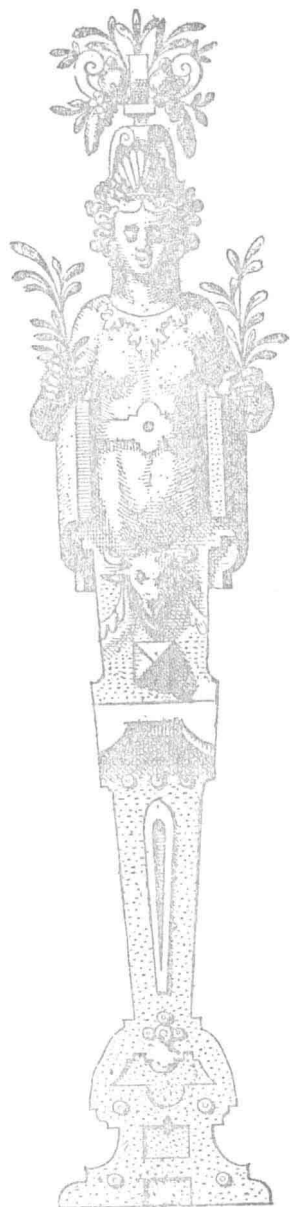
539——マチュリンの生涯——富山太佳夫



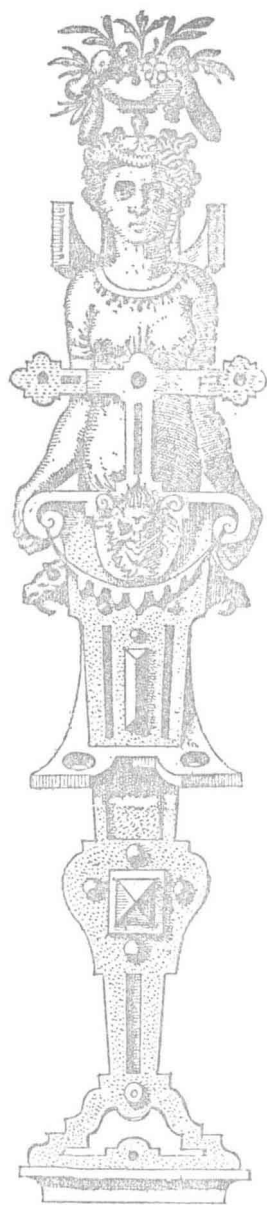


放浪者メルモス——下





第三卷



第十二章

我が唇は暫えども、暫わざりしは我が心——*1

其方を悪魔に引合させたは、そは誰か？

——シャーリー『アイルランドの聖パトリック*2』



息が切れ、力の失せるまで走り抜き（暗い間道にいることは気がつく由ありません）、行き止まった所には扉がひとつあるばかり。倒れかかって力任せに開放すると、いかにも低い天井の暗い部屋へと出たのです。そのままガックリ膝と手をついた私が立上りざま、周囲をぐるりと見回したとき、自分の不安や恐怖のことを束の間消し去る奇怪なものが、この眼にとまった次第です。やけに小さな部屋でした。ぽっかり空いた破損を見るに、私は扉を毀したのみか、その道連れに、扉の前に掛けてある布まで破ったようで、いざとなったらその襖に隠れることすら出来そうでした。部屋の中には人影もなく、奇妙な家具をゆっくりと調べる余裕がありました。

布の掛かったテーブルひとつ、その上に奇妙な形状の器がひとつ、書物が一冊——その中を覗いてみても、ただの一字も判読不能。まあ、賢明にと云うのでしょうか、魔術の書だなと合点して、思わず恐怖にかられつつ（私がまともな証拠です）、そのまま書物を閉じました（実はこの書物、註解つきのヘブライ語聖書であったのです）。それからナイフが一丁。テーブルの足に繋がれた雄

鶏のけたたましい鳴き声は、これ以上ここに繋がれていることは我慢ならぬと訴えるかのようでした *3。

この準備、何か異様に思われました——犠牲を捧げる仕度でしょうか。身震いがつきました。それで、私の体重で毀れた扉の前に吊してあった例の布で体をくるんだわけでした。天井から垂下る薄暗い角燈の光によって、これらの品々が浮かび上ったわけですが、私の眼に映じたものはそれだけに尽きません。中年の男が一人部屋に入って来たのです。高い鼻、無気味に光る二つの眼、眉のあたりの暗い影——スペイン人の私が見ても、それは一種独特の人相ですが、その人物がテーブルの前に膝を折り、置かれた書物に接吻し、恐るべき犠牲を捧げるための（私はそう想像しました）文章を読みあげて——ナイフの切れ味を確認し、再び跪き、私の理解の及ばぬ言葉を発したあとで（例の書物の言葉でしょう）、何とかいう名を、マナシー・ベン・ソロモンだったでしょう

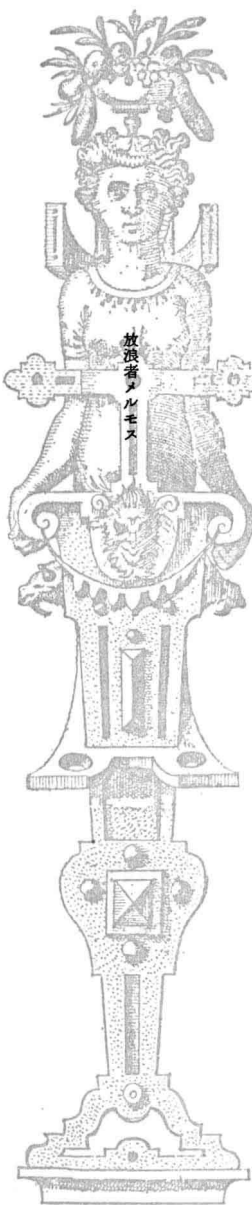
*1—キケロ『義務論』第三巻、二九連一〇八行。

*2—ジェイムズ・シャーリイ（一五九六—一六六六）は英国の劇作家、詩人。その一六四〇年の作。

*3—〔原註〕「扱てその後に、誰か一家の長たる者が、諸手で雄鶏を捧げつつまず中央に進みでる。*****それから贖罪の段取りとなり、

件の一家の長たる者は、『この雄鶏を我が身替りとならしめよ、云々』と称えつつ、己が額に三度までこの雄鶏を打ち当てる*****しかる後、即座に雄鶏に手をかけて殺害す」マジ博士（ラフ・オウ司教）の贖罪論に引用されたバクストーフの言説を見よ。

カンバーランドは『オプザバー』の中で、この儀式は過ぎ越しの祝いのときまで秘密とされていると述べていた、と記憶する。いずれにしても、滅罪の日はこの儀式が行なわれたことも充分考えられる（訳註 ウィリアム・マジ（一七六六—一八三）はダブリンのトリニティ・カレッジの数学教授をつとめ、後にダブリンの大司教となった人物で、一八〇一年には『贖罪と悔罪の教理に関する論』を著わしている）。



放浪者メルモス